

「令和２年度 第１回DRMセミナー」

今年度第１回 DRM セミナーは、「次世代の道路管理」というテーマで筑波大学 名誉教授 石田 東生 様より「道路の大変革期における長期ビジョン ～ 2040 年、道路の景色が変わる」、東京大学 教授 布施 孝志 様より「交通渋滞マネジメントに向けた学習型モニタリング・状態予測」について講演いただきます。

■日時 令和２年１２月１４日(月) １４：００～１６：３０

■場所 web 形式

■次第

14:00～14:05 開会挨拶（理事長）

【講演】

14:05～15:15（質問・応答 10 分含む）

「道路の大変革期における長期ビジョン ～ 2040 年、道路の景色が変わる」

筑波大学

名誉教授 石田 東生 様

15:15～16:25（質問・応答 10 分含む）

「交通渋滞マネジメントに向けた学習型モニタリング・状態予測」

東京大学 大学院工学系研究科

社会基盤学専攻

教授 布施 孝志 様

16:25～16:30 閉会挨拶（専務理事）

講師紹介および講演概要

■筑波大学 名誉教授 石田 東生 様

「道路の大変革期における長期ビジョン ～ 2040 年、道路の景色が変わる」

《講師プロフィール》

- ・ 1951 年 大阪府生まれ
- ・ 1974 年 東京大学土木工学科卒業 大学院を経て
- ・ 1978 年 東京工業大学 土木工学科 助手
- ・ 1982 年 筑波大学社会工学系講師・助教授・教授を経て、2017 年 筑波大学名誉教授
- ・ 専門分野 社会資本政策、交通政策
- ・ 社会的活動 国土交通省社会資本整備審議会道路分科会長、国土審議会委員、グリーンイノベーション戦略推進会議委員、自動運転ビジネスモデル検討委員会委員

《講演概要》

道路とクルマの進化の歴史の中で現在を大変革期と捉えた上で、CASEに対応した道路のあり方（進化）、都市の安全性・快適性と賑わいを取り戻すシェアドスペース（回帰）を軸に据えた道路の長期ビジョンを紹介する。併せて、ウィズコロナにおけるスマート社会・DXと分散型の新しい国の形などからみたその意味と意義について考えてみたい。

■東京大学 大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授 布施 孝志 様

「交通渋滞マネジメントに向けた学習型モニタリング・状態予測」

《講師プロフィール》

- ・ 2002 年 東京大学大学院工学系研究科 博士課程修了、博士（工学）
- ・ 2002 年－2003 年 日本学術振興会特別研究員（PD）
- ・ 2003 年－2007 年 東京大学大学院工学系研究科 助手・講師
- ・ 2007 年－2010 年 国土技術政策総合研究所 研究官
- ・ 2010 年－2017 年 東京大学大学院工学系研究科 准教授
- ・ 2017 年－ 東京大学大学院工学系研究科 教授

《講演概要》

道路を賢く使うためには、モニタリングや交通状態予測に基づく交通流動マネジメントが重要である。近年、移動型・定点型観測データ等が多数取得され、また、AIに代表される学習型手法が進展し、ビッグデータや学習型手法を活用した高精度なモニタリング手法や交通状態予測を用いた道路マネジメントが期待されている。本講演では、交通渋滞対策の検討に資する学習型のモニタリング・交通状態予測、およびそれらに基づくエリア内の交通流動マネジメントに関する研究を紹介する。